

地元直営の直売所「きたん市場」 財部町大川原

大川原峠がある財部北校区の県道都城隼人線沿いに「きたん市場」があります。地元有志によって、特産品直売所としてオープンしたのは、曾於市が誕生する直前の平成17年4月。朝採れ新鮮野菜や手作りのこんにゃく、からいもちなどのほか木工品などの工芸品も取り扱っており、手打ちそばやうどんが食べられる軽食コーナーもあります。

設立当初からきたん市場の代表をされている松ノ下幸人さんにお話を伺いました。

きたん市場の概要を教えてください。

現在の敷地が遊休地になっており、役所（当時の財部町）から、遊休地解消の手だてはないかと打診があり、自治会長、地元議員を交え幾度か話し合いを重ね「直売所建設」が決定しました。

建設には、役場からの補助金500万円を充てましたが、地元有志の木材の提供や労力提供により出来上がったものですので、補助金の倍くらいの建物になると思います。

現在の組合員数は、63名です。開店は9時、閉店は冬季5時半、夏期が6時です。通りすがりのお客様がほとんどで、鹿児島市や霧島市、都城市からのお得意様もおられます。財部の学校給食にもシイタケなどの食材を納入しています。4月には、創業5周年記念のお客様感謝祭を計画しています。

直売所を運営しての効果は。

当初の目的として、地域住民の交流の場、お客様と

の交流の場の提供を掲げました。地域やお客様との交流はこれからですが、組合員同志の交流の場となっており、生きがいづくりにもなっていると思います。

きたん市場の特徴はなんですか。

軟弱野菜専業農家が5人いますので、年間を通して葉物野菜が途切れることはなく、新鮮さでは、どこの直売所にも劣ることはありませんが、専業農家の野菜と比較すると他の組合員さんのものがやや見劣りして売れなかったりしてしまうジレンマも抱えております。

きたん市場の特徴は、農産物の仕入品の販売を一切していないということです。「この地域で採れないものは、置かない」ことが、お客様から信頼をいただいているようです。加工品も組合員の手作り品のみです。

今後の展望はどのように考えていますか？

北校区も高齢化や一人暮らしが進んできており、自由に行動ができにくい方々も見受けられます。

そういった方々のためにも、将来的には注文宅配ができる体制をとりたいと思っています。

また、きたん市場の加工室も保健所からの許可をいただいたので、加工品の生産販売も手がけていきたいと思っています。

自分たちの住む地域を良くするために、自分たちの力を出し合って、組合員みんなで楽しんでいる雰囲気が良く伝わってきました。高齢化社会を迎えて、自分たちのなすべき事もしっかりと見据えておられる「きたん市場」のみなさんは、いきいきと輝いておられました。



「会員同志のふれあいが楽しみ」と言う女性会員



12月のイベントの様子（左手前が松ノ下さん）